

北海道防衛局長による講演実施 ～白老青年会議所～

平成26年5月20日（火）、北海道防衛局ではしらい創造空間「蔵」において開催された一般社団法人白老青年会議所（以下「白老JC」という。）の5月度例会において、島川局長による講演を実施しました。

これは、白老JCが開催する「連携によるまちの未来」と題した例会において、防衛計画の大綱や地域と自衛隊の関わりなどをテーマとした講演について依頼があったものです。

冒頭白老JCの黒田理事長から「白老町では昭和33年に自衛隊が駐屯し、長きに亘り、自衛隊とまちが関わってきた歴史がある。島川局長の講演を聞いて、今後、地域と国防活動がどのように関わり、連携するかを考える時間にしたい。」との御挨拶があり、引き続き、白老JCのOBである戸田白老町長から「白老町におけるまちづくりの歴史は自衛隊・防衛局なくしてあり得ない。この講演を通して、よいまちづくりを行うためのアイデアを得たい。」とそれぞれ御挨拶がありました。

島川局長は自己紹介のあと、防衛省の組織、我が国を取り巻く安全保障環境、平成26年度防衛関係費、北海道内の防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策、新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画について、約1時間説明しました。

当日は、白老JCの会員のほか、白老町長、白老町議会議員、白老町商工会、白老ロータリークラブ、白老ライオンズクラブの会員など約40名の来場者が講演を聴講しました。

講演の後、活発な質疑応答がなされ、「白老港第3商港区における白老町と自衛隊との協力体制の可能性」についての質問に対しては、島川局長から「大規模な部隊の移動には港を使うことが必要であり、東日本大震災では苫小牧港を利用した経緯がある。」と回答しました。

北海道防衛局では、この度の講演を通じて、防衛行政を御理解いただくための一助になればと考えております。



北海道防衛局長の講演風景



講演風景



会場全体の様子



来場者からの質問